

2 スチール缶

平成 24 年度のスチール缶のリサイクル率は 90.8% で、品目別ガイドラインの目標値 85%以上を継続して達成しています。(図 - IV - 4) 再資源化重量は約 60 万トンでした。リサイクルが順調に行われている理由として、次のことが考えられます。

- ①消費者の協力による分別排出が徹底されていること
- ②全国的に、自治体の分別収集システムが完備されていること
- ③全国的に、集団回収等多様な回収の仕組みが進展していること
- ④全国的に、鉄リサイクル事業者による再資源化体制ができてきていること

- ⑤鉄鋼メーカーによる受け入れと再商品化体制が整っていること(入口が確保されていること)
- ⑥スチール全体として資源循環が可能な市場が確保されていること(出口が確保されていること)
- ⑦スチール缶の素材は、質が高くリサイクル性に優れていること

使用済みスチール缶はプレス処理もしくはシュレッダー処理等され、製鉄工場で原材料として使用されます。建築用の鋼材・自動車用・冷蔵庫や洗濯機等の家電用・スチール缶用の鋼板等さまざまな鉄鋼製品に再生されます。(図 - IV - 5)

図-IV-4 スチール缶の消費重量および再資源化重量とリサイクル率の推移

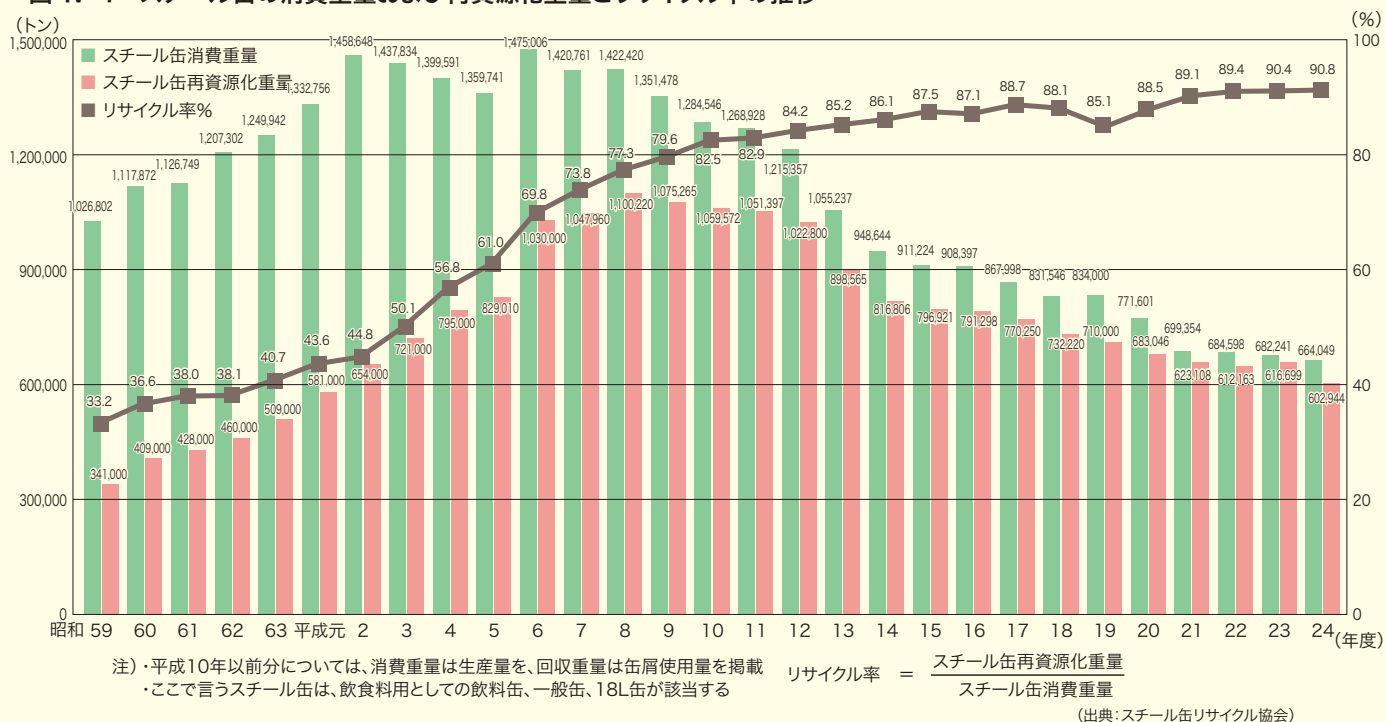


図-IV-5 スチール缶リサイクルのフロー (平成 24 年度)

